

大阪ハイエンドオーディオショウ報告(2014.11.7)

大阪ハイエンドオーディオショウは11月7日から9日まで心齋橋ハートンホテルで、オーディオセッション in Osaka 2014は11月8日から9日まで南船場ハートンホテルで開催されました。大阪ハイエンドオーディオショウには11月7日に、オーディオセッションには11月8日と9日の両日行ってきました。以下は大阪ハイエンドオーディオショウの報告です。

<http://www.axiss.co.jp/OHAS.html>

<http://www.denden-town.or.jp/nasa/session/>

全般的な傾向としてはアナログのデモが増えていると感じました。また、Magicoのスピーカーを使用するデモが多かったようにも思います。一頃の大音量で圧倒するような聴かせ方は減り、落ちついた雰囲気でも聴くことができるようになってきました。今回の目玉の一つは、ハイレゾのデモとハイレゾをヘッドフォンで聴かせるコーナーがあったので期待して出かけましたが、良い音源もなく成熟していない段階で少し無理をしているというように感じました。ハイレゾのデモは、e-onkyo、buffalo、LINN、LUXが共同でやっていましたが、音質的には聴き耳を立てるほどのものはなかったように思います。ヘッドフォンで聴かせるコーナーではHUGOに期待していたのですが、ULTORASONEのヘッドフォンで聴いてもほとんどの音源はfoobar2000で再生されたFLACで唯一Duo Bassoの64sDSDを聴いても、この音源はCDで自宅で聴いていますので格別のグレードアップとは感じませんでした。



注目されたのはキソアコースティックのブースと三浦氏のキソアコースティックのデモでした。小部屋の方では空間に広がる音場感が見事でした。



一方、三浦氏のデモで使用された、KORG のレコーダーで 5.6MHzDSD 録音され、編集も DSD のままやったというサンサーンスの 3 番の SACD です。キソアコースティックの小口径ではオルガンの最低域は難しいところがありましたが、大編成ものにおける DSD のメリットが十分に活かされていました。

その他、印象に残ったと思われるものは、ソナースファベールのスピーカー、エアフォース 2 のアナログ、トライオードの意欲的なプリアンプでした。トライオードの JUNONE ブランドは有力なハイエンドグループに入ってきた感じがします。



ウイーンアコースティックではショルティ/ウイーンフィルのリングの CD をかけてもらいましたが、価格を考えれば立派なものでした。



本館の方では 20 万円を切るエラックの小型スピーカーもオーケストラを十分に鳴らしており、コストパフォーマンスの高さが目立ちました。



総じて、アナログや管球アンプの貫録勝ち、海外製のデジタルプレイヤーの成熟度が上がってきていること、ハイレゾの魅力を出し切れなかったというところでしょうか。

速報が下記に出ていますのでご参照ください。上記は興味の惹かれたもの限定して記載していますが、下記速報は全般的なレビューになっています。

<http://www.phileweb.com/news/audio/201411/07/15184.html>

<https://www.facebook.com/ohas.info>